令和七年（二〇二五）三月二十七日発行
『大倉山論集』第七十一輯抜刷
（公益財団法人　大倉精神文化研究所）

史料翻刻　木下韡村日記（十）―⑤

木下韡村日記研究会

史料翻刻 木下韡村日記（十）―⑤

木下韡村日記研究会

〔凡例〕

本稿では、なるべく原文通りに翻刻することを原則とした。

一　漢字は、原文通りとする。したがって、正字体（旧字）と俗字体（新字）とが混在している場合がある。（例　詩會・詩会、詫摩・託摩など）

一　主な異体字も原文のままとした。（例　帋（紙）、棊（棋）、畧（略）、舩（船）、阝（部）、羣（群）、往（往）、蘇（蘇）など）。ただし、パソコンで表現できない異体字は、通行の字体を使用した。

一　助詞の「者、江、而、ニ」は、そのままとし、他の変体仮名は、通行の平仮名を使用する。「江」、「者」、はポイントを小さく、「而」「ニ」はそのままとした。

一　合字の「𠬝（より）」「〆（しめ）」は、そのままとし、それ以外は、仮名を使用した。

一　不明箇所は、その文字数分□と表記した。また、その文字が推測できる場合は、傍注を加えた。なお、虫損などで文字は判読できないが、地名や人名などで推測がつく場合は文字を当て嵌めたり、傍注を付したりした。翻刻不可能な箇所で文字数が推測できる場合は「□」、文字数が不明の場合は「〔以下数字破損〕」と表記した。

一　欠字・平出も原文通りとした。

一　読みやすさを考慮して、適宜読点および並列点を付した。

一　原文は、日付のあとにすぐに本文が始まるが、翻刻では日付のあとは改行して本文を記した。これは、読みやすさのためと初期の巻の形態を踏襲しているためである。

一　本文の補足情報を〔　〕で傍注として付した。なお人名には役職をできるだけ付したが、姓のみが記されている場合は、紙幅の関係上、名を付すのみに留めた。

一　抹消部分は削除し、翻刻には反映させなかった。

安政三丙辰正月吉旦〔一八五六〕〔旦〕

某五十二歳、妻三十五歳、信十郎十四歳、寉女八歳、小吉郎六歳、哲三郎五歳

二日

朝行水、五ツ半前出仕、昨年御達之趣有之、年頭御禮長上下ニ不及、御酒頂戴も御省略被　仰出候ニ付、昨日迄ニ御番方不残相濟、今日ハ昨日不参之者、座同様御郡代以下相濟候上、御奉行觸御知行取、踏出候て六人宛御禮、毎々御畳通ニ而直ニ右江行、五節句同様也、右相濟、御寺・御家老中打廻り、雨天ニ付引取、但昨夜〔嘉永二年時、時習館会談連〕高橋弥平小児果候、今夕取置いたし候

三日

京町内坪井頭宅・助教宅迄、夫々泰勝寺参詣、千反畑當り相仕舞　○御家老衆廻勤ニも及不申候との内意之趣、御觸達ニ相成候事

四日

五ツ時、学校出勤、同役揃候段、御目附手附之物書江相答、五ツ半時之御供揃ニて、御城江被為　入、猶御役所江被為　入候御注進有之、講釈操付、開講當点〔時習館講導〕辛嶋多喜次、例之通函丈内江罷出居、御出座之上講釈如例、御唐紙立候上ニて、御家老衆跡ニ付引取、同役中ハ東廡江列席、諸生皆上下、軽輩ハ出方無之　○右一旦引取候上、直ニ　召出操付、文武師役中御間内ニ列座脇差ハフク道、御出座御意之上無程御立被為有候而、皆々堂中を引取、猶文藝師役中講堂ニ列坐、惣教衆出初之挨拶有之、其上ニて、於句讀御熨斗頂戴、畢而教授局江出候而引取　○詩文御心付之儀ニ付、去冬教授局手数之儀有之、當春ハ根墓相堅り可申、追而館中ニ記録致し候べし　○二丸御禮罷出候處、御居間江被　召出候、小太郎〔禅村弟〕出府

五日

在宿

六日

在宿、小太郎〔鞭村弟〕帰在

七日

高橋〔弥四郎カ〕・合志〔弾之丞〕・河部〔駿太郎〕・近藤〔市之允〕・稲津〔角之允〕・土屋〔立仙〕・清成〔八十郎〕・築山〔又兵衛〕・片山留守〔吾三郎〕、柏木〔文右衛門〕・友成〔津内〕・入江〔伝右衛門〕・澤村・飯田〔熊之助〕・村上久太郎〔幾久馬、若殿近習免隠〕・宗多兵衛〔諸師役、槍術〕・松原傳右衛門・松岡八左衛門〔小姓役〕、年礼、平服打廻り、夕方越年之塾生并清太郎〔門生〕・深水百次、年杯、夜平山大九郎至　○松原貞之允〔傳右衛門子〕・大橋順蔵〔訥庵〕上書稿を借り、岡松辰吾〔甕谷〕ニ遣ス

八日

在宿

九日

同様、夜水津〔熊太郎〕江行、片岡へも咄有之　○昼之内、徳太郎〔鞭村弟〕至、江戸状相認、溝口大夫〔蔵人〕・辛川奉行〔孫之丞〕・入江傳右衛門〔若殿近習次組脇〕・片山喜三郎〔特別館調導〕・遠山三右衛門〔御前様附〕・北野隆右衛門〔中小姓〕也、相洲江之状も相認、答仕出ス、生駒新太郎〔粟里〕江も状出ス

十日

在宿、関応左衛門〔安政五年七月、荒尾手永塘方助役〕・犬塚孫一郎〔門生〕・高本仁十郎・福島大太郎〔門生〕、其外入門等、終日応接、徳太郎〔鞭村弟〕も至ル

十一日

在宿、南寮ニ在リ、福島大太郎〔天太郎〕至、夜与諸生話

十二日

古庄・佐伯・佐村〔番方カ〕又右衛門、返礼　○稲津久兵衛〔二番組番頭免隠〕殿、去ル八日病死之段、為知来候　○夜矢野甚兵衛〔布田手永惣庄屋〕・渡ド子八郎〔坂梨手永惣庄屋〕・犬塚伊之助〔高森手永惣庄屋〕・三村傳之助〔鮫手永惣庄屋〕・木下初太郎〔南関手永惣庄屋〕父子、年杯、例年之通也、今ヨリハ十二日夜を例トスベシ

十三日

四ツ前出勤、尤講釈前ニ付、羽織袴也、例刻講済、引續総教衆言賞、操出等之儀ハ袴ニていたし候、右相済楽三

曲、終テ惣教衆盃遣御酒頂戴、八ツ過濟　○夜舊友一同、大城家江行

十四日

昼比ゟ馬見物、夜渡ヒ子八郎〔坂梨手水惣庄屋〕旅宿、犬塚〔伊之助〕一同尋之、直ニ上村〔多次郎〕・中村〔加善〕江参、内話仕候

十五日

出初、格別手数なし、八ツ後辛島〔多喜次〕招請ニ赴ク、山先生〔山口仁九郎〕モ同シ

十六日

四ツ前上下ニ而二丸江出、御會初有之、於御附部屋御酒御膳被下、昼比相濟、直ニ小笠原民部會ニ赴キ、稲津久兵衛〔二番組番頭免隠〕方吊儀押廻し、暮比橋谷市之助〔頭光院〔益姫〕斉護室〕附〕江咄候而帰ル、丑三郎〔鐘村弟〕出府仕居候

十七日

朝之内轉升生来ル、例之通文會請持

十八日

講釋當点、早引、夜町〔玄蕃〕の江行、平山源〔奉触知行取席〕作出府

十九日

講堂詩会、並之通　○石州濱田藩詩文修行岡行太郎、道学山崎派、永井貞三郎と書たる名刺を以、両生至り談話及暮、両生ハ朝鮮人漂流いたし候を送り、長崎ヨリ帰途之由

廿日

夕番後、本山江立廻り、古庄八太〔勘定頭免隠〕、去ル十七日病死いたしニ付、為吊儀罷越、三村傳之助〔鯰手水惣庄屋〕江逢候事　○石光文平〔独礼、門生敬助之〕、来ル二月朔日出立之由ニ付罷越、注文物左之通

一　染地晒　壱疋　　納戸かすり壱丈八尺

右代金壱両弐歩遣置候事

廿一日
出勤
廿二日
同
廿三日
同、海賀宮門来〔秋月藩士〕　〇二丸御詩會初、加々山同道出方〔権内〕
廿四日
夕番
廿五日
今月ハ例詩文會無之
廿六日
二丸出、小笠原家会
廿七日
出勤
廿八日
四五日牙痛起り、今日殊ニ甚敷候間、引入
廿九日
右同様也
卅日
出勤、早引、昼後ゟ菊池江相越ス、貞七連レ暮過舊里着
二月
朔日
朝社参、墓参相濟、平山〔源作〕同道、桑満〔伯順〕先生江参ル、先生今年九十、正月十一日御紋服被下置候、手前ゟ進上物ハ裏絹一反、祝詞一篇也、昼過ゟ八ツ過迄滞座、右田〔城野弥三次弟〕喜十郎

江源作同道

二日　暇日

昨夜伯母氏隠宅止宿、朝飯後立チ、野間口村江徳永礼八〔韓村妹寿恵の夫〕
轉宅いたし候ニ付見舞、昼過、今村之様引取、兄弟年杯

三日　暇日

朝飯後、竹迫〔たかば〕通りニて帰府、七ツ前着

四日

出勤

五日

加〔権内〕々山詩會、宅請持詩会之儀、是迄酒肴出し来候得共、
右之儀取止メ、正月・十二月終始等ニ酒肴相用候而も心
次第ニ而、其外ハ取省候様との儀ニ付、此節ゟ右之通り
ニ致候事　○夜、下津〔休也〕隠居入来、偶水津〔熊太郎〕も至ル、隠居ハ
詩話也

六日

二丸出、尤今日ハ　御発駕前被　仰渡有之、御物頭列之
同役出方いたし候ニ付、當番無之候間、二丸ゟ講堂江出
勤、簗瀬〔馭兵衛〕御殿ゟ夕番ニ出

七日

晴、夕方小吉郎〔韓村子〕を連、市立、小山庄之助〔門人正之助カ〕植木を買ヒ、
庭ニ植込ム、中津〔主静〕海平之進、夜話

八日

夕番、有吉家会

九日

講藝斎会早出、易会並之通、引取候後、徳太郎〔韓村弟〕至、矢野
百喜病氣ニ付、片岡〔門生〕左一郎宿元江便り付、犬塚〔門生〕孫一郎出
府

十日

加々山詩会請持、作多鶴處字、矢野百喜姉至候〔篠内〕〔門生〕

十一日

時習館　御入、召出、五ツ前出方いたし、四ツ過相濟候事

十二日

町野を迎、百喜容躰見セ、今日旅宿之様引移候事〔矢野〕〔玄蘭〕

十三日

昼前、有吉直熊殿会致し、夕番後同僚一同、有吉市郎兵衛殿招讌ニ赴キ、蒸氣船小形取立一覧〔立愛〕〔隠居、時展〕

十四日

昨朝、山内平治見へ候而、上村事ニ付咄合之儀有之候ニ付、今朝上村江打合セ候事〔阿蘇南郷郡代〕〔彦次郎カ〕

一、小太郎、家内里江返し申候段、手紙差越候事〔鏑村弟〕〔多茂子〕

一、夕番後、上田久兵衛家督・河部駿太御足・築山又兵衛御穿鑿頭、去ル十一日御用之面々之内、為歓右之通罷越候〔駿太郎、学校目付〕〔筑山元学校目付〕

十五日

家内・塾生召連、城北野遊、八景宮有吉殿車屋門前芝居ニ酒を開、七ツ半比引取　○下津隠居、朝見へ候而今晩肥前田中弔六郎参候ニ付、参候様との事ニ付、夜ニ入罷越、相客牧多門助、主人荻角兵衛也〔多茂子〕〔休也〕〔番頭免〕〔番方組脇〕

十六日

二丸、下津隠居頼ニ付、詩直シニ罷越、八ツ比引取〔休也〕

十七日

文会、岡松辰吾・大城家・町の、暇乞〔甕谷〕〔太郎右衛門〕〔玄蘭〕

十八日

御発駕　○朝飯後、岡松辰吾・片岡忠右衛門・中松助作〔甕谷〕〔台所頭〕〔慶応二年勘定役〕

暇乞、大城〔太郎右衛門〕家、町野〔玄蘭〕見立後、御目見、杭場江出ル、七ツ過

御立、御老職廻り方例之通　○前文相濟、山内平治〔阿蘇南郷郡代〕方ニ参り、上村在宅之儀、上村存念聞繕候通及噂、夜井〔菊池郡代〕上村〔彦次郎〕在宅之儀、上村存念聞繕候通及噂、夜井上久之允を尋

十九日

詩会等例之通

調人〔周礼〕職解義、銘々差出置候處、手前書附ハ其侭ニ而、

〔猟兵衛〕簗瀬列書附之趣ニハ駁議入候而、御刑法方御奉行中ゟ書附被差越候を、今日當番箱ニ有之、拝見仕候　○辰〔岡松〕吾出立ニ付、安井〔息軒〕・塩谷〔宕陰〕・保岡正太郎・嵩真一郎江状頼、今夜深江謙蔵〔佐賀藩士、元塾頭〕・浅井〔新九郎〕・船津〔三石衛門〕・今井〔久兵衛〕、状認ル

廿日

夕番

二公子〔澄之助・寛五郎〕講堂御入、日會御覧

廿一日

當番

廿二日

當番

廿三日

講後、二丸出、加〔権内〕々山一同御詩会　○大宮〔阿蘇惟治〕司氏旅館ヲ訪フ

廿四日

夕番、有吉家会

廿五日

呉淞園詩文会、後、山口〔仁九郎〕先生同道、加〔権内〕々山宅棋

廿六日

大宮〔阿蘇惟治〕司氏旅館ヲ訪、二丸出、小笠原家会

廿七日

廿八日

加々山〔権内〕頼ニ付夕番、夕方、佐村〔番方カ〕又右衛門宅招、山口〔仁九郎〕翁出懸ケ棋打

廿九日

夕番、有吉家會、此夜塾中論語會卒業、是月小盡

三月〔安政三年〕

朔日

山口〔仁九郎〕先生御用有之

一、寺西家代々秘傳ノ灸之事

手首の一ノ筋ゟ中指の先キまて寸を取、其寸の取様ハ、片手計にてハ其人の指のそりたる有故ニ両の擘よりあわせ、すいほを以取ル、又中指を折、中ノ一寸を三ツ取、これを二ツニ折コト也、灸を受る人を裸にして板の上座セしめ、両の膝の下に枕をかわせ、腰をすへて後ロ向ニ座す、右手首の寸を板ニつれあてゝ、其寸の先を髄の真中ニつき立て、其當る所ニ仮点す、其後右中指の内一寸を三ツ取たるすひほの二ツに折たるを仮点に折、月の様ニあて左右ニ点す、又右の仮点ゟ三寸五分髄のきわに、男ハ左、女ハ右ニ点する也仮点ハ、除ク三所ニて廿一壮宛すへる也、此灸愈不申内、外之灸を禁す、房事を禁す、主治、虚労・労疲・労咳等、度数ハ病之軽重ニよる也、水津〔熊太郎〕ゟ為見候ニ付、記置もの也

○御掃除方を頼、塾井戸、自分井戸サラへ

二日

夕方、金子〔門生〕新蔵・小國〔門生〕廉平至、新蔵ハ再遊也　○山口〔仁九郎〕先生昨朔日御用、五拾石御足、二十挺頭同列ニ被仰付候、依而祝ニ参り、夜遅ク引取

三日

佳節、家内〔多茂子〕・子供・塾少年生召連、河尻江遊、大慈寺徒

弟某・欠原(助之進)同道至ル、大正寺御普請小屋を借、終日釣遊、晩帰

四日

平野友霞隠宅、追々申合之末看花、柏木(文右衛門)・加々山(権内)・辛嶋(多喜次)・中津海(平之進)也

五日

宅詩会、當時居寮御作事中、諸生引拂候ニ而、人数少し

○小笠原会

六日

二丸出、近日片野家ノコトニ付、高橋(嘉永二年時、時習館会読連)弥平追々申談候也

七日

小笠原家別荘、案内、上田門吾(射術師役上田紋吾カ)・小畠富太(番方組脇カ)・代見達、都而十餘人、友岡弥三左衛門(句読師弥三右衛門カ)モ同行

八日

夕番、有吉家会、下津休也隠居ヲ尋、夕方引取、此夜ゟ塾中孟子ヲ讀始ル

九日

早出、句讀會

十日

詩會受持

十一日

塾生年抔見知取遣十五人餘、夜上村(懸髙)彦次郎至

十二日

夜下津(休也)隠居申合ニ付、監物殿(長岡)江出、江戸以来□□□(虫損)話也、寺本源太夫詩文為見ニ相成、源太夫ハ松城(代)家中ニて、先年侗庵(古賀)様之坐ニて逢たるひと也、象山(佐久間象山)大星ノ省嘗賦も見セニ相成

十三日

夕番後、有吉家会、石井〔茂助〕同坐、先ニ引取

十四日

下津〔休也〕隠詩巻添削相仕舞持参いたす、直ニ夕番ニ出申候、先夜以来咄向之儀有之、今日も其事及内話候事

十五日

在宿

十六日

二丸御會、如例罷出候處、御附中紙面行違、今日御灸治、明日御會ニ相成候段、當番之御附役ゟ噂有之引取、直ニ小笠原家会讀、昼過相仕舞、学校江出方いたし候

十七日

文會請持、居寮生引拂中ニ而出方無之、在塾生両三人出申候、尤二丸御會讀例之御刻限ゟ出申候上、文会いたし候事、夜下津〔休也〕隠居来話

三月十八日

講釈、當点

十九日

講堂詩会、外生計両三輩

廿日

御連〔遵之助・寛五郎〕枝様方芹水備前大夫別荘ニ而、御詩会被　召出候ニ付、朝四ッ過ゟ罷越、加々山〔権内〕不快引入、日暮御帰館御跡ニ而引取

廿一日

當番如例、月試有之、杜鹿川原、西洋流銃手打方見物、佐村〔又右衛門〕同道

廿二日

今朝上村彦次郎〔驍窩〕、内牧〔うちのまき〕在宅江引越候段、為知ニ相成候
監物〔長岡〕殿用人参候而、主人ゟ口上之趣ハ無隙之中申兼候得
共、孟子説経を仕呉候様、月ニ三度、十ノ朝、彼屋敷江
参り呉候様との事ニ付、追而返答可仕段申向、出校之上、
教授局并同僚咄合候處、何方よりも別ニ存寄も無之候間、
八ツ後、右承知之及返答、監物〔長岡〕殿對面、委細之咄有之候、
帰途下津〔休也〕隠居江一昨日借用之唐詩帰返完
一、公子方御詩作之節、諸生相連候様御附役ゟ申聞候ニ
而、於校堂加々山〔権内〕其外咄合候末、今夕私宅ニ中津海〔平之進〕
ヲ招キ、噺合候

廿三日

講釈當点、二丸御詩会ハ先達而相濟、今日無出方

廿四日

小太郎〔韡村弟〕縁組之申談ニ付、家内〔多茂子〕菊池江罷越、信十郎〔韡村子〕・中村〔門生〕
四郎・成松〔門生〕熊喜相連　○夕番後、有吉家会

廿五日

居寮止ミ居候ニ付、例月郊外詩文会休ミ　○町野〔門生〕玄同を
勧メ、中村進士〔孫平次〕隠居見舞ニ遣ス、母之頼也

廿六日

二丸御不例ニ付御休会、講堂を小笠原家会、二丸御附役
野村佐一左衛門江談し、御詩会之節諸生召連候筈　○
家内〔多茂子〕菊池ゟ帰ル、吉村〔韡村後妻の兄弟〕庄太郎妹、名とす、年廿、小太郎〔韡村弟〕
江縁組内談相調候事

廿七日

今朝ゟ鎌田列易会、廿九日を今朝ニ直ス

廿八日

集会、手前ニ受持、居寮選富田熊男事申談

廿九日

朝監物〔長岡〕殿頼ニ付、月ニ三度、十日・廿日・大ノ月晦・小

ノ月廿九日、各朝彼方江罷越、会讀出席之面々、壹岐殿〔長岡是豪〕
・小源太殿〔足保〕・下津久馬方〔番頭〕・尾藤大次郎〔金左衛門〕・沼田…松野
…牧…下津五郎助〔久馬弟〕・同鹿之助〔久馬弟〕・都築…小坂大八〔安政六年相続、千石〕、
其外某々、追而問合記可申事
今朝、孟子見梁襄王一章相濟、但シ監物殿〔長岡〕出席ニ成候事
夕番後有吉家会

〔安政三年〕四月

朔日

在宿、下津久馬弟五郎助〔番頭〕を被連入門、以後井上久之允〔菊池郡代〕宅
圍棋

二日

如常

三日

如常

四日

當番、豊前上毛〔こうげ〕郡薬師寺村恒遠次三郎入塾
塾中諸生相増候ニ付而ハ、追々二階附ケ之仕法も打立候
得共、取決不申、先町野塾明キ居候ニ付玄同〔門生〕江相談、今
日四五人分遣ス
原佃〔門生〕・池上玄理〔門生〕・萱嶋九馬雄〔門生〕・池田為雄〔門生〕・竹崎雲伯〔門生〕也

五日

居寮引拂内、郊外詩文人数無之、加々山〔権内〕申談ニ而今日手
前講堂江相詰、加々山〔権内〕宅ニ而壱人ニ而持候事、夕方小笠
原家会

六日

御連枝様〔遵之助・寛五郎〕日奈久〔ひなく〕御入湯、来ル十二日迄之御會讀御延引

七日

當番、夕方井上久之允〔菊池郡代〕宅大塚〔七右衛門〕列と圍碁

八日

夕番、有吉方会ハ断申来候

九日

早出　○高橋弥四郎（鞆村先妻の父）於江戸御用、御足高五拾石被下置候段申来、心祝いたし候ニ付、参る

十日

加々山南目暇（権内）日行いたし候ニ付、手前受持　○今朝監物（長岡）殿朝会之儀、被致出猟候ニ付、断申来

十一日

夕方小太郎（鞆村弟）荒尾ゟ廻り来、縁女呼取之日取相談、丑三郎（鞆村弟）江申遣候筈

十二日

小太郎（鞆村弟）、五ツ比打立、引取

十三日

御寺参拝　○高橋弥四郎（鞆村先妻の父）相州詰ゟ下着、今日内々着、信十郎（鞆村子）・弥平（高橋）同道早朝ゟ出迎、枯木邊迄相越、手前儀ハ先世子（細川慶順）御正當ニ付終日不罷越候　○為次郎出丑三郎（鞆村弟）手帋至、小太郎（鞆村弟）縁談、来ル廿四日ニ引越申談候由、右之趣徳太郎（鞆村弟）江是ゟ申越候

十四日

十五日

朝飯後下津休也翁（元番頭）至、昼後高橋江参る、夜帰

十六日

二丸御會、あしきたの（芦北）野坂のうらのうつせかひ（空貝）、一ツ戴く

小笠原家会、下津五郎助（門生）出方いたす　○夕方吉井平八参候て同道いたし、平八隣家能見物

十七日

加々山〔篠内〕昨日南目ヨリ帰ル、今日文会請持、尤居寮生今日ゟ□〔出担〕揃候ニ付詩会出方無之見込ニ付、手前ハ講堂迄詰ル、昼比早引、高橋弥〔弥四郎・弥平〕父子・信十郎〔鐘村子〕連能見物ニ罷越候

十八日

十九日

夕方平川貞四郎講堂世話役ニ成候ニ付而、同役中案内申候間罷越

廿日

廿一日

廿二日

家内菊池〔多茂子〕江参る、小太郎〔鐘村弟〕縁組来ル廿四日と定候事

廿三日

二丸御詩会、中津〔主静〕海平之進・大里〔門生〕八左衛門同道

廿四日

二三日前ゟ高橋家内病氣

廿五日

文会延

廿六日

二丸出、小笠原会

廿七日

家内菊池〔多茂子〕ゟ帰ル

廿八日

藤堂〔高猷〕和泉守様御藩中渡ㄊ七郎列三人来ル、夕方井口〔呈助〕集會

廿九日

郊外詩文會、千原瑞巖寺、雨

晦

朝監物殿會〔長岡〕

〔安政三年〕五月

朔日

阿鶴〔韓村子〕・哲三郎〔韓村子〕河内入湯　○上野善左衛門及忰、其外塾生十四五人相連、岐部村漁ニ罷越、皆々為引取候而、善左衛門并中村四郎〔門生〕を携、三村傳之助宅〔鯰手水惣庄屋〕江止宿

二日

暇日頼越八ツ過帰宅　○塾生之内昨日水前寺江出浮之儀ニ付、教諭可仕儀出来いたし、夜分申聞

三日

富田熊男〔門生〕江学資料弐百五十目〔カ〕被下置ニ付、呼寄相渡

四日

五日

佳節、早朝ゟ下津〔休也〕隠居同道、河内江罷越、子供見繕、夕方隠宅江参る、翌朝飯後尚隠宅を尋、引取、子供無事也　○一両年前河内道嶽村〔たけむら〕之様ニ開キ、鼓瀑ノ上ニ新道出来、初而通行、此間奇勝アリ

六日

早朝打立候得共隙取、八ツ比帰宅、今日暇日仕候

七日

夕方、田尻彦太郎〔嘉永七年会読連〕案内ニ参る　○入江傳右衛門下着、歓ニ参る　○昨日夕方徳太郎〔韓村弟〕来リ、明朝引取候由申之

八日

講経点前、早引、丑三郎〔鞆村弟〕出府、諸事咄合

九日

子供河内ゟ帰る、塾生を連嶋崎迄迎へ、道違候而不逢

○辛川孫之丞〔泰行副役〕下着、歓ニ参る

十日

監物殿〔長岡〕会断申参候　○貞七を河内ニ遣ス、徳平次ニ禮物送る　○下津隠居〔休也〕ニ詩二首、一首ハ此間彼方ニて作りし温泉見舞の作也、一首ハ隠宅ノ詩也、羊羹を送る、隠居返事子供ニゆるあめ至る

十一日

夕方佐野亥一郎〔目付〕招ニ因而罷越、山口翁〔仁九郎〕・柏木〔文右衛門〕・簗瀬〔眞兵衛〕・加々山〔横内〕・井口〔呈助〕・辛島〔多喜次〕・平川也〔貞四郎〕　○安藝僧〔宇都宮黙霖〕黙霖、又号王民・史狂、二三年前鳥町善正寺紹介ニ而来りし事あり、又至、其人聾吃筆談ニ而応接スルコト也、此夜黙霖在塾中讀予文集、佐野〔亥一郎〕ゟ帰リニ井口〔呈助〕同道、黙霖ニ行合筆談ス、至鶏鳴

十二日

黙霖去薩摩ニ行ト申ス、蒲生薫平〔君〕・高山彦九郎ハ流亜ノ狂僧也、文氣ハ如泉　○夕刻佐野〔亥一郎〕江禮ニ参る、堀内〔若殿附〕久左衛門下着、歓

十三日

雨、世子〔慶順〕御着、御杭場出如例、溝口〔蔵人〕太夫御供着、歓、北野〔中小姓〕隆右衛門着、歓

十四日

夕番、如例

十五日

在宿、夕方浅井〔新九郎ヵ〕下り、歓

十六日

二丸、小笠原会如例

十七日

若殿〔慶順〕様御登城、引續学校江被為入、四ツ比相濟、八ツ後中津海平之進〔主静〕同道、小笠原〔長厚カ〕民部方ニ罷越、但彼方頼ニ因而、中津海を頼ニ民部方詩作ニ指南いたさすためなり

十八日

如常、嶋田〔若殿附〕傳之丞至

十九日

木村才記至、入江〔若殿近習次組脇〕傳右衛門至

廿日

朝監物〔長國〕殿會、昼如常

廿一日

當番、如常

廿二日

當番、如常　○薮〔備頭〕三左衛門方養子、薮亀次郎入門之儀ニ辛島〔多喜次〕ヨリ噂有之候末、今日留守ニ薮方不来、佐分理貞之助罷越、口上書之趣辛島申談と違、入門之上申請、会讀頼度との事ニ有之候間、間違之儀辛島迄申遣候

廿三日

朝定之助参リ、昨日之口上書至り、貞之助筆取違ニ而、猶主人口上之趣相述、辛島〔多喜次〕申談之通ニ而入門承知いたす

一、若殿〔細川慶順〕様来ル廿六日ニ学校御入之御達有之　○夜黙霖〔宇都宮〕復来、小島ヨリ来候由、何か宮部〔鼎蔵〕ニ用アル趣ニて、今夜塾ニ提灯ヲ借りニ参りたる也、夜深く宮部江参りし也

○二丸御詩会出方野々口謙助山中新兵衛相達

廿四日

朝原田庄右衛門〔門生十之助の父〕参り、直熊〔有吉〕方痛所平愈、會讀参呉候様申、

夕方罷越

廿五日

郊外詩文会、高麗門禅定寺ニ相勤

〔備頭〕薮三左衛門殿養子、薮亀次郎入門

廿六日

〔慶順〕若殿様講堂江被為入、訓導説經一座手前當点、諸生説經二座、堀内軍蔵内生・牧貞喜外生、自身ニハ論語為政篇子游問孝之章を説申候、四ツ半過御帰座　○小笠〔長厚カ〕原民部會

廿七日

二丸昨日之御替日罷出、簗瀬〔銀兵衛〕頼ニ付夕番相勤

廿八日

暇日いたし、笛田〔ふえだむら〕村後藤玄由宅江阿鶴〔雅村子〕を召連療治頼ム

北野〔中小姓〕隆右衛門御用拝領物

御奉公附

私儀、時習館訓導被　仰付置、去卯六月朔日ゟ當辰五月廿九日迄當前之御奉公相勤候内、病中ニ而日数十一日不参仕候

一、両教家塾致世話候様被　仰付置、世話仕居申候

一、澄之〔細川護入〕助様

寛五郎〔細川護明〕様御會讀申上候様御用人ゟ御達ニ相成居、御定日之通罷出申候

一、當年五拾二歳罷成申候

右之通御座候、以上

安政三年六月　　木下真太郎　印判

〔源之助〕真野・小山〔門喜〕・上野〔十兵衛〕三殿當リ、辛島〔多喜次〕政府江持参

五月廿九日

朝長岡家会、是月小尽

〔安政三年〕六月

朔日

小笠原〔長厚カ〕民部方詩作稽古之儀ニ付、備前〔小笠原〕殿ゟ内頼之筋有之、中津〔主静〕海平之進を世話いたし、今日井芹之別荘持出之詩会初ニ付、昼比ゟ罷越、夕雨一快、町野〔玄廟〕華甲〔かこう〕之筵留守ニて開申候ニ付、詩会之帰相断、暮前ゟ引取、町野〔玄廟〕宅江赴ク

○今日甲佐手永御惣庄屋丸山平左衛門二男丸山勝蔵・同姓丸山運助方江出居、兼而意趣有之候哉ニて、外ニ会連と唱候もの共引誘、國分村近邊ニて永原〔佐一役〕恒助嫡子永原岩熊を及打擲候由、追而承候

六月二日

同三日

丸山勝蔵列九人計被　召捕候由

同四日

同五日

〔権内〕加々山詩会受持、夫ゟ小笠原家江罷越、会例之通

同六日

二丸出、後講堂出

六月七日

〔福島〕福　亀之允、杉島手永江所替

同八日

夕番後、有吉家会

九日

句讀会早出、其外並之通

十日

當番後、新轉生之内相連、〔権内〕加々山宅詩会

十一日

並

十二日

並

十三日

夕番、有吉家会並之通

十四日

御寺参拝、在宿、七ツ比ヨリ家内臨産（多度子）、無程女子（辰）出生、

母子平安

十五日

座敷前ニ泉水堀らせ、今日ゟ水入

口上之覚

官塾西側御圍御借添之坪丈ケニ有之、其餘ハ生垣仕置、

松原傳左衛門（空襲役カ）相境ニ而勝手ニ間近く、塾生四拾人内外之人数纔之疊地ニ而世帯・行水等仕候事ニ付、垣廻り手薄御坐候而ハ不見分之上、麁忽之儀も出来難計、心痛仕候間、右之相境三間半程官塾之御圍ニ被成下候様、且官塾入用薪、石場・椽下等ニ納り兼、外積ニ仕置候得者、雨之時候等別而迷惑仕、別段取立候場所無御坐候間、右御出来ニ相成候御圍塀裏ニ三尺之廂出来ニ相成、薪差置候様有御坐度、御時節柄御出方筋難奉願御坐候得共、於官塾ハ無據筋ニ御坐候間、何卒右之通御作事被仰付被下候様奉願候、此段宜敷被成御達可被下候、以上

六月

右文面改而左之通

官塾西側御圍御借添之坪丈ケニ有之、其餘ハ生垣仕置、

松原傳左衛門相境ニ而勝手ニ間近ク、塾生四拾内外之人数纔之畠地（らいち）ニ而世帯・水扱等仕、地形も隣下りニ有之、垣廻り手薄ニ御坐候而ハ、對隣家麁忽之儀も出来難計、心痛仕候間、右之相境三間半程官塾之御圍ニ被成下、東側通り筋同様之御圍ニ被仰付被下候様有御坐度、御時節柄御出方筋難奉願御坐候得共、於官塾ハ無據筋ニ御坐候

間、何卒右之通御手入被仰付被下候様、尤見懸等ニ係り候儀ハ無御坐候間、聊ニ而も御出方薄有之程御作事所より見分之上、古物を以出来被仰付被下候様奉願候、以上

六月

――

十六日

二丸小笠原、例之通　○前記願書、今日山口〔仁九郎〕先生江達ス

十七日

文会加々山〔権内〕宅、畢而橋谷〔市之助〕ヲ訪、辛川〔孫之允〕方ヲ見舞フ

十八日

丑三郎〔韓村弟〕兄弟書至賀生子〔辰〕、廿日迄朝夕会休

十九日

会読、詩会例之通

一、先日辰次郎宅ニ而拂ニ成候刀有之、望ニ有之候段〔カ〕有之間、仲人として今村乙〔後ニ勤王家〕五郎相頼、代銭百七十五〔カ〕匁、此間乙五郎を相遣候處、今日乙五郎講堂江出、慥ニ受取相渡候段申聞候事

廿日

古閑〔門生〕東作〻能登守〔細川利用〕様御家来館中座席之事、且御取扱士席軽輩之分別見込等も為知呉候様申遣候ニ付、獨看ハ相懸と當直之間、講釈ハ別席、阿蘓家来座着所之上〔カ〕と御指圖ニ相成居候得共、内輪様子有之□分出席不取計、士・軽之界ハ手許之見込ハ難付段、紙面ニて返答いたし候事

○嶋田〔四郎右衛門〕某・須佐美権之丞・長岡衛門・松山権兵衛・中村進士・山本三郎右衛門以上六人、御番頭一同引入ニ成候由、遠坂関内方も引入ニハ成申間敷哉之事

跡ハ竹原九左衛門・下津久馬・小坂九郎助・寺尾〔九郎左衛門〕某・津田〔平助〕某也

廿一日

當番、例之通

廿二日

右同、夕方小山門喜方〔泰行〕暑氣見舞、大槻弾蔵方〔用人〕江出、岡松〔義谷〕辰吾事内話仕　○高田十兵衛一昨廿日死、今夜葬于流長院

廿三日

講釋、當点、八ツ後二丸御詩会、首藤乙熊〔門生〕・田屋豊彦同道、暮比引取、今日ハ御二階屋也

廿四日

夕番、有吉家会断、七ツ半比、是法隱〔ぜほう〕宅を尋ル、市郎兵〔有吉〕衛殿不在なり

廿五日

郊外詩文会、監物殿〔長岡〕竹部別荘借る　○日暮、村上久太郎〔天守方支配頭〕同道、松村十之〔鋼鉄砲十五挺頭〕進招ニ赴ク、明石三郎〔勘定役〕七来飲、夜八ツ過帰宅

廿六日

二丸御會、初而御闔ニて被成御説候　○小笠原家会　○講堂江出、課題等認、帰る

廿七日

廿八日

講釋、當点、八ツ後古賀〔侗庵〕小太郎門人脇坂〔安宅〕淡路守預所作州福渡御番所服部〔カ〕悥斎と申者、米屋幾平ニ止宿仕之由ニて来訪、暮方迄咄　○此日書物風入　○雨雷新町三人ヲ撃ツ

廿九日

夕番、有吉家会断、小児近日口中不自在、乳を不呑得、今日池田〔独礼医師〕文迪ニ見ス　○昨日徳永〔鍾村妹寿恵の夫〕礼八至、今夕福島〔杉島手永惣庄屋〕亀之允至

卅日

監物〔長岡〕殿会、直ニ出校

七月〔安政三年〕

朔日

仙助を雇、貞七同ク、龍田山江未明ゟ遣し、おミつ〔鞭村亡子〕棺ヲ謙次郎一所ニ合セ候事、自分・信十郎〔鞭村子〕朝飯後ゟ罷越、昼比引取

一、江戸定居志州稲垣〔長明〕様藩中、小林大之〔安政四年昌平黌入学〕進来　○井上勝蔵〔泰行所根取〕嫡子井上市太郎〔亮助〕儀、御場内ニ於而鉄炮を打候ニ付、往々不被　召仕身分ニ相成節ヲ、折書を讀度趣ニて、此間浅井新九郎〔若殿近習〕咄之末、水津〔熊太郎〕ゟも勝蔵歎筋申込ニ相成、同通為致候筈ニて、今日勝蔵召連入門、一同ニ山岡輔太郎〔門生〕等ニ杯ス

二日

井口〔呈助〕御殿講釈ニ付、夕番頼来

三日

溝口〔戚人〕殿ゟ使者一昨日参、御嫡子権之助方会讀頼ニ付、今朝蔵人〔溝口〕殿江直ニ出候而相談いたし候事　○講釈ハ簗瀬〔騏兵衛〕也

四日

並

五日

溝口権之助方今朝ゟ会出、詩会宅受持、小笠原会　○夕方井上亮助〔門生〕を呼、佐村〔又右衛門〕江同道いたす

六日

二丸五ツ半時御始、畢而講堂文会例之通

吉村庄太郎〔鞭村後妻の兄弟〕・一宮彦九郎、相州詰被仰付、北野〔隆右衛門カ〕江頼渡り方受取、今日両人切手於宅増田屋何某ニ賣渡、代銭受取らせたり

七日

佳節、在宿

八日

夕番、有吉家会

九日

早出、如例

十日

監物殿会、早出、〔正岡〕〔篠内〕加々山宅詩会出席同断

十一日

出勤並之通、八ツ過ゟ上野善左衛門・高橋弥平、〔嘉永二年時習館会読連〕塾生等召連、杜鹿ニ涼ミ出浮、碁ヲ携、夜五鼓帰ル

十二日

並之通

十三日

夕番

宇土守田瀬戸助ゟ先日宇土侯〔細川立則〕詩巻一冊差越、内分添削御頼之儀申越候ニ付、預リ置、今日迄ニ批畢、詩惣計百一首、中々御出来と存候を一二首、左之通

答人問閑居　○肥遯従来避俗譁、風光到處総兵家、魂迷春夏秋冬月、詩就東西南北花、双屐踏處朝採茶、一鐺聽雨夜烹茶、茲中欲識閑居意、午睡醒時看暮鴉　○雨夜懐郷、屈指家山茅幾州、（改作家在鎮西茅幾州）、凄然何事涙空浮、（何事作屈指）、身如喬木初遷鳥、思似中流不繫舟、燈影滅将春院静、蛙聲作輟夜庭幽、南肥東武千重恨、併作枕頭一段愁　○對月懐郷、韶漏聲休夜色開、中庭移榻興悠哉、秋従遠客愁處到、月向浮雲淡處来、砌下風清飜蚓留、池頭雨過掃蚊雷、郷思不与涼天爽、抱膝苦吟空独杯　○病中感懐、秋風吹雨透蘆帷、孤枕關情正此時、故國書従愁裡到、他郷感雨病中知、海通北越寒来早、家在南肥夢落遅、一載官遊成底事、茶鐺爐畔臥吟詩　○柳岸楓塘次第移、扁舟行

處月如規、籌燈照水無人語、知是漁翁放鵜時、（月夜舟行）○霞關風色遠相連、梅樹深邊鶯語圓、王殿瓊楼春如海、□鳶軽颺夕帰天、（雲如關春望）○携酒葫蘆遠覓詩、江村一路雨如糸、薫風吹落黄梅子、正是松色上市時、（夏日江村）○為愛蒼苔日灌泉、且禁来往屐痕穿、昨宵又得黄梅雨、階前敷遍萬点銭、養苔

十四日

朝御寺参拝、帰候而終日休ミ、井上江碁打

十五日

夕柿原江墓参、夜涼、大動〔カ〕

一、石光文平〔独礼門生敬助父〕江為替置壱両願出、水津〔熊太郎〕江頼ミ申候、昨日之事也

十六日

二丸御會、如例、小笠原民部不快、会断申来候

十七日

文会、宅持、夕方井上勝蔵〔奉行所根取〕案内ニ付、佐村〔番方カ〕又右衛門同道、勝蔵前承白川端之小屋ニ夜迄飲、是夜月不甚明

十八日

並之通

十九日

詩会、並之通、木下徳太郎〔韡村弟〕出府、来話

廿日

朝監物〔長岡〕殿兄弟衆會、並之通

廿一日

並

廿二日

御殿講釋、朝五ツ過出、四ツ半過御始講、齊宣〔孟子梁恵王上〕王問曰斎

桓晋文之事云々臣固知王之不忍也ニ至ル、御酒頂戴、引取

廿三日

廿四日

夕番、有吉家会、如例

廿五日

呉淞楼詩文會　○吉村庄太郎明後廿七日出立ニ付、諸渡り方之内、造作差紙類残リ居候分、今日請取、屋敷番江申聞、人を以相届サス

廿六日

二丸出、小笠原会、如例

廿七日

廿八日

夕番、有吉家会、如例、尤朝監物殿〔長岡〕会ハ断申来ル

廿九日

八月〔安政三年〕

朔日

昧爽〔まいそう〕より河内江罷越、下津〔休也〕隠居病氣を尋ル向キ也、河喜多〔天守方日付〕権左衛門出會、庄屋宅ニ駒井乞〔カ〕米又止舎致居候ト相かゝり、夕方より帰る

二日

三日

四日

五日

加々山宅詩会、如例（篠内）

六日

二丸出、片山喜三郎下着、夕刻罷越、阿ド（門生）正記も下ル（時習館調導）

○　七日

夜半ゟ打立菊池江罷越、尤今日ゟ七日産穢之趣相達候事、村田・赤星立寄、昼後新宅江着いたす

○　八日

平山源作（源作）江話合之儀有之、同道、城野江参る、夕方玉祥寺衛藤を尋、中ノ瀬江止宿（豪舳知行取席）

○　九日

高野瀬正官寺打廻り、才右衛門を尋、平山（源作）江罷越、尚話合有之、此夜新宅江引取

○　十日

朝飯後、源作（平山）・弥三（城野）次来ル、同道、城野江参り、夕方御築江城野同道、丑三郎（譜村弟）詰合セ、暮比引取、新宅ニ高山（謙太）謙至

○　十一日

野間口之様信十郎（譜村子）を連罷越、小雨ニ而滞留

○　十二日

千田之様引移、中分田（なかぶんだ）ニて杉谷伊豆ヲ訪、同道縁家ニ至ル、止宿（門生直彦父）

○　十三日

帰府、雨

十四日

夕番、調人（周礼）職解釈之儀ニ助教其外、同役築瀬（駅兵衛）江尚御達有之候趣承ル

十五日

朝小雨、去ル十二日より小吉郎〔鞆村子〕痢疾相煩、今日當り昼夜ニ五六十行、尤ねつ無之、氣分格別不衰、右ニ付放生会〔ほうじょうえ〕ニハ信十郎〔鞆村子〕・おつる〔鞆村子〕を遣ス、尤隈ヲ甚右衛門も連サセ、薮ノ内ニ頼事

十六日

二丸出、雨

十七日

加々山〔篠内〕文会、町先生度々見候ニ付、為返礼罷越

十八日

講釈、當点

十九日

詩会如例

廿日

壹岐〔米田〕殿会　○夕番、片山喜三郎〔時習館調導〕下着後、講堂江出

来ル廿三日ゟ其元江別段講釈被　仰付旨被　仰出候条、可被得其意候、尤委細之儀ハ御附役ゟ直ニ懸合可有之間、左様可被相心得候、

以上　　八月廿日　　御用人中

―當り

尚々以来も講釈等被　仰付候節ハ、御附役ゟ直ニ懸合有之筈ニ候間、此段も左様可有之御承知候、以上

右之通申来候ニ付、御受申達候　○辛島〔多喜次〕江内話有之、宅ニ罷越入江方〔傳右衛門〕江立廻候處、不在

廿一日

出前、入江方〔傳右衛門〕江罷越、承合候處、此間孟子浩然氣章世子〔慶順〕御内会被為在候得共、御通不被遊ニ付而ハ、御思召ニ出候事ニ付、當惑ニも存可申候得共、右之通御達ニ相成候段、演舌有之候

廿二日

早引仕候、廿三日講釈之儀ハ簗瀬〔眼兵衛〕江引上リ頼候

廿三日

四ツ前御殿出勤、於陽春浩然気章初ゟ孟施舎一段迄講す〔孟子〕

廿四日

御殿朝ニ被　仰付、曽子之守約也〔孟子〕〔公孫丑上〕ニ至ル　○夕番ニ出申候

廿五日

四ツ時初、反動其心〔孟子〕〔公孫丑上〕ニ至ル　○春松閣詩文会ニ出ル

廿六日

九ツ時揃ニ而、至揠苗節〔孟子〕〔公孫丑上〕、講畢候ハヽ、講録差上候様、道家ゟ〔角左衛門〕噂有之　○今日二丸之儀ハ兼而御断申上置候

廿七日

〔細川慶順〕世子御出ニ付御休講、学校江出申候

廿八日

四ツ時揃ニ而、知言の節〔孟子〕〔公孫丑上〕ゟ伯夷伊尹〔孟子〕〔公孫丑上〕ハ如何と云章迄上ル

廿九日

本章終ル、御酒頂戴

卅日

講録相調〔譚村先生遺稿拾遺附録〕候ニ付、出校不仕候　○一昨廿八日簗瀬方集会、居寮撰之儀世話申、論説不合　○長岡家会

〔安政三年〕九月

朔日

在宿、講録相調〔譚村先生遺稿拾遺附録〕

同二日

同様

同三日

同様

同四日

同様

同五日

詩会宅受持、小笠原会断　○若殿様〔細川慶順〕御執セ之鮎二十五頂たい、山口先生〔仁九郎〕ゟ順達

同六日

二丸御会讀書　○昨夜拝領之儀ニ付御殿江出、御礼　○水野〔門生〕儀一郎、去ル三日ゟ痢疾ニて相煩す〔カ〕、宜敷無御坐、南寮江うつり申候　○家内〔多茂子〕此比痢疾やふ〳〵平復いたし候

同七日

二丸二公子〔澄之助・寛五郎〕・高野邊太・佐分利〔使番兒カ〕権平、野屋敷江御詩会御持出ニ而召、早朝ゟ加々〔稼内〕山同道、御先ニ罷越、四ツ前御出、暮比御引拂　○水野〔門生〕儀一郎容躰宜敷無之、國元江人立可申哉之儀ニ塾中話合

同八日

講〔韓村先生遺稿拾遺附録〕録　認、引入

同九日

佳節、終日講〔韓村先生遺稿拾遺附録〕録　認

同十日

同前、水野〔儀一郎〕格別邪氣進とも相見不申、日々と人立押延候、長尾〔門生〕恕吉も痢之気味ニて、今日ゟ引取　○講堂詩会を受持

同十一日

〔鏑村先生遺稿拾遺附録〕孟子不動心一章講録和解之趣ニ相認、紙数都合三拾枚今日仕立、御殿江差出候筈之處、猶手数有之見合

同十二日

朝飯後御殿江出、〔鏑村先生遺稿拾遺附録〕講解書差出、御附役道家角左衛門受取　○講堂江出、夕方〔時習館句読師〕三苫惣左衛門案内ニて〔仁九郎〕山口先生初、同僚・世話役中相越

同十三日

〔用人〕朝大槻弾蔵方江罷越、沙取〔舎人〕大木殿別荘行之誘ニ而打合セ、飯後例講當点、早引、四ツ半過比出門、〔直隠居〕有吉市郎兵衛殿是法別荘ニ尋、直ニ沙〔ママ〕鳥江相越、〔弾蔵〕大槻方参被居、詠草之相談有之、追々〔用人〕早川十郎兵衛・〔若殿近習次組脇〕前田善左衛門・〔若殿附〕道家角左衛門・〔藩師役〕小堀清左衛門皆至、酒・詩書各々相楽、〔大槻〕弾蔵方書も餘計ニ出来仕候、夜五ツ過比引取、雨天ニて道筋大難儀ニ候事

一、今日塾中心配筋出来いたし候段、沙〔ママ〕鳥ゟ帰申候上ニて〔多茂子〕家内ゟ及噂候ニ付、塾生杉森退蔵・井上亮助・小山庄之助・野尻準平呼出承候處、隣家〔孝懐役〕松原傳右衛門・槍術稽古場相境之御塀を、〔門生〕碓井謙吉柿之食餘を投候而、不計相越候由之處、稽古生之内ゟ直ニ投返し、塀越ニ透て見松原惟善を見當り、右投候者を尋候ニ付、惟善一旦ハ存セさる趣申候内、碓井聞付、私ニ而御坐候大尾御蔵仕候、と横坐りなりニ申候様子ニ見受、其侭ニ而不差置、門人之内、關八郎助・安岡　両人稽古場門ゟ出、自分門江参りたる様子ニ付、小山庄之助急キ罷越、右懸合ニ候ハ、、投候者ハ旅生、殊ニ少年ニて大當惑いたし居、此条ハ別録

十四日

〔傳右衛門〕朝松原江罷越、塾生碓井の不調法断申、且以来塾生不調法候儀御坐候節、直ニ手元ニ懸合有之度段及相談申候處、夕方〔傳右衛門子〕貞之允見へ候而申置候ニ付、猶罷越、右断相門中懸合之面々申談候處、手前ゟ断候趣ニ承知いたし、以来之事も申談通いたし可申、尤父子留守□〔虫損〕も有之節ハ届兼候儀も可有之との事ニ付、示ニ相成居候ハ、、左様之

事ニ有御坐間敷段及返答置候事　○夕番

十五日

高橋身祝案内

十六日

二丸御会、小笠原家会　○昨日　御入之御初ニ而有之

十七日

明日御入ニ付、文会休ミ

十八日

世子学校御入、〔細川慶順〕簗瀬〔猷兵衛〕例講、書生山田次郎・櫑原助之允両座、句讀・習書終而山田江孟子臨時被　仰付、句讀・習書并師役御望有之、八ツ比過濟　○夕方井澤〔番カ〕傳次案内夜遅ク帰ル　○二公子東北御巡在

十九日

講堂詩会

廿日

夕番

廿一日

當番

廿二日

御殿講釋、當点、文王之囿〔孟子〕〔梁惠王章句〕方七十里章、大雨　○鑰〔門生〕尼保三郎大帰

廿三日

講堂、左氏開巻

先年家塾御引直之入目、高橋方江問合セ、左之通

一、米五石五升余

此銭六百五拾五匁八分四厘四毛壱絲

一、銭弐貫四百六拾目餘

合三貫百拾五匁八分余

廿四日

夕番

廿五日

郊外詩文會、清水塾ヨリ杉森・益田・竹添出ル、其外中村モ同様

廿六日

二公子〔澄之助 寛五郎〕御巡在中ニ付、二丸無出、小笠原家よりも支申来、講堂□□〔虫損〕出ル

廿七日

加々山〔権内〕頼ニ付夕番、簗瀬騏兵衛教授局詰被仰付

廿八日

夕番、加々山〔権内〕宅集會

其元儀、御次御儒者在勤中江戸詰之節ニと拝領金弐拾両被渡下、詰込之暮御心付銀百目詰越ニ相成候得者、拝領金弐拾両丈ケ割合被渡下筈之處、間違、天保十一年以来詰中御心付之名義を以、右弐拾両被渡下候、依之渡込左之通

一、銀三貫九百目　此金六拾両

天保十一年・弘化二年・同四年三詰分、壱詰弐拾両宛にして渡込分本行之通

内

壱貫三百目　此金弐拾両

此分天保十三年被　仰出候御趣意ニ付、其以前之渡込分被捨下候

三百目

天保十一年以来三度詰込之暮御心付銀被渡下候分御渡方無之候ニ付、差継被　仰付候分

残而

弐貫三百目

此分渡込當暮以後御切米之内ゟ五十七ヶ年賦

御取立　　三日
右之通被仰付候条左様可被相心得候、以上　　四日
九月廿八日　　御勘定方御奉行中
木下真太郎殿

廿九日　　五日
前日御勘定方御奉行中今之御達御請仕出ス　　加々山宅詩会（権内）

晦日　　六日
監物殿会、直ニ出勤（長岡）　　御連枝様御巡在中ニ付、講堂迄ニ出ル、紀事会（澄之助・寛五郎）

十月（安政三年）　　七日
朔日　　八日
在宿、草稿點削　　講釋

二日　　九日
七ツ後辛嶋同道、薮三左衛門殿江案内（多喜次）（備頭五番組）

十日

講堂無人ニ付詩会不罷越、尤内話之儀有之、同僚中加々〔権内〕山宅江罷越

十一日

夕方皆々山口〔二九郎〕先生江集ル

十二日

教授局ニて昨夕之儀、話合有之

十三日

藪氏〔三左衛門〕江礼ニ参る　○前日之事井口〔呈助〕江内話

十四日

夕方大槻〔弾蔵〕方江罷越、観唐状元書

十五日

在宿、大城太郎右衛門方頃日於江戸御使番ニ被仰付、縁家打寄ニ付罷越

去ル十三日蒲池〔上総郡代〕太郎八方江参り、内分脇方屋敷之儀、相尋ル

十六日

二丸出、小笠原会断申来

十七日

文会加々〔権内〕山受持、無人故自分講堂詰

十八日

十九日

廿日

廿一日

二丸御詩会、加々〔権内〕山一同、鎌田・大里〔八郎次〕相連

廿二日

廿三日

廿四日

廿五日

瑞巌寺詩文會

廿六日

小笠原家会　○二丸ハ御巡在中也

廿七日

廿八日

廿九日

晦

長岡家会　○溝口権之助（門生・蔵人嫡子）講堂出席

（安政三年）十一月

朔日

朝（銀兵衛）簗瀬方江参る、屋敷之事内談、同人三苫（惣左衛門）江至り、帰りニ立寄、手前又三苫（惣左衛門）ニ至、猶山口（仁九郎）先生江至ル、夜真野（奉行）源之助殿江出ル

私儀、助教先生を助、家塾生世話仕候様去ル嘉永六年被仰付、近藤（英助）先生添屋敷内ニ而、立置候家塾を御引直被仰付候節、私江被下置候屋敷百三拾坪之内、下塾も建置候而、畠地無御坐、松原（穿鑿役）傳右衛門拝借地子三拾五坪并石本三助拝借地子屋敷之内拾六坪程、當分御借添被置候様御坐候ハヽ、官塾并相添候便所・石場等納り可申哉之段、各様御内聞御坐候砌、坪割を以見積り相納可申段見込申出、其後右之通被仰付候處、年々入塾多人数ニ相成、下塾共ニ惣畳数四拾六枚之内、食事之場所・荷物・行燈類

差置候分相除候得ハ、座席之用ニ相成候ハ三拾七八枚ニ
も相當候處、大體(カ)弐拾五六人、當夏抔ハ四拾人餘之詰込
ニ相成候節も有之、何分押合成兼申候、勿論入塾相断候
へハ、其分之事ニ御坐候得共、在方農隙を以罷出候者ハ、
始終相詰候ニ而も無御坐候、又ハ旅生帰省仕、再□(虫損)隙
取候等ニ而、當前明席御座候ニ、遠在又ハ他邦ゟ指當罷
越候者を申断、差返候儀ハ成兼、右之綾を以員数相極候
儀出来兼、時候ニ因り一同相越候へハ、右之通之多人数
ニ相成申候、當夏之儀ハ近邊町(ヒ)野玄粛江戸詰中家塾明居
申候間内分申談、五六人宛操替差置申候、重而左様之も
成兼候處、下塾建継ハ勿論、便所當前手足不申候得共、
夫さへ取立候畠地無御坐、其上右之通多人数ニ候へハ、
私勝手前纔之畠地有之候井戸釜不得已押合ニ為致候處、
召仕之者共相混不締之形ニ相見へ、今少し界限も相立申
度候得共、其儀出来兼候而已ならす、私宅古家之上八畳
一ト間之外ハ会讀仕候ケ所無御座候ニ付而ハ、是非作事
も可仕儀ニ御坐候處、當時之家坪ニ作り増候へハ弥以塾
向ニ差障り、下塾ハ取細メ不申候而ハ被行兼候間、此儀
も取懸り得不申、彼是當惑仕候得共、初發之見込届兼、
前文之通御物入を以官塾御引直被仰付候末ニ付、今更外
ニ致方無御坐、家内・子供を旧在江差遣候ハヽ、當分扱
も付可申と存し、内輪申談候處、際限も無之事ニ付、其
儀出来兼候間、萬一程能屋敷も御坐候ハヽ、轉宅仕、官塾
等ハ奉願自勘を以引移申度存念も御坐候得共、出方筋不
容易候上、右様之屋敷急ニ可有之様も無御坐、重畳當惑
仕居候事ニ御坐候、依之若右丈ヶ被行候坪数之上り屋敷
も御坐候ハヽ、私家屋敷差上、相應之坪数被為拝領、塾
地丈ケハ當分御借添ニ相成候様ニも御坐候ハヽ、官塾之
儀ハ御圍ニ至る迄損不申様入念自勘を以引移、弥以諸生
納り兼候成行ニ御坐候ハヽ、別ニ小屋ニ而も取立、御國
中ハ勿論、他藩ゟ御國ニ稽古を心懸、折角罷越候者差返
不申、井竈男女相混不申様仕度、官塾之儀ハ近年御(カ)引直
ニ相成、無程扱候様ニ御坐候儀ハ恐多奉存候得共、実以
不得已儀ニ御坐候間、如何様卒御仕法被付下候様、助教
先生江御内意被下度奉願候、以上

十月　　名

右同役江出し候事

二日

七ツ比ゟ石井茂助〔時習館習書師〕・大塚七右衛門〔時習館句読師〕同道、蔵人殿〔溝口〕招ニ赴ク、夜飲

三日

四日

此間寒氣、雨

五日

宅詩受持、夕方小笠原家会

六日

二丸御会

七日

八日

二丸御詩会有之筈ニ付、有吉家会断置候處、御詩会御延引　○夜分真野方〔源之助〕江出候得共、牙痛ニて逢無之、屋敷之事柳川丁見込ニ内決仕候段、豊彦〔真野源之助子〕迄仕置候

九日

朝、真野方〔源之助〕江出、前条文被申出候大躰亦穂口之方片隅ニて真野方〔源之助〕存寄有之候末ニ付、右之通也　○荻角兵衛〔番方組脇〕河尻引越ニ付離杯案内、暮方ゟ参る、引取懸ケ宇野同道、下津隠宅〔休也〕江立寄、柏軒〔白木〕等偶来、作詩

十日

詩宅受持

十一日

十二日

夜、片岡忠右衛門〔台所頭〕家内江屋敷之事内話　○暮方石光敬助〔門生〕

来、内談有之

十三日

十四日

御寺参拝、夜徳太郎〔蕉村弟〕至

十五日

在宿

十六日

二丸出、小笠原忌中、休会

十七日

文會持

十八日

二丸御詩会、加々山〔権内〕一同出

十九日

廿日

廿一日

廿二日

中津海〔平之進〕案内、国友半右衛門〔句読世話役〕宅ニ集ル

廿三日

廿四日

冬至、溝口〔蔵人〕太夫招集

廿五日

臨流庵〔妙解寺塔頭〕詩文会、例縁家を招、祭酒を飲

廿六日
二丸出、小笠原忌中

廿七日
教授局并同役中調人〔周礼〕職書附一覧致候様、加々山〔権内〕ゟ渡

廿八日
前記書附、山口〔仁九郎〕先生ゟ取ニ被遣、返ス

廿九日

〔安政三年〕十二月
朔日
菊池行

同二日
在菊池、處々打廻り

三日
在旧里

四日
衛藤七弥太ヲ尋

五日
帰府、小代〔大組付持座〕次郎助・河喜多権右衛門同道

六日
二丸出、講堂出勤、年末しらへ、去ル二日四日ニ下調相
濟居、披見仕候

七日
参堂之上前記調、暮比迄

八日
講堂御用有之候ニ付、講釈迄ニて引取、水足方江行

九日

早出　○井上久之允御目附轉役

十日

監物殿〔長岡〕会断申来居候、出勤

十一日

丑三郎〔鞆村弟〕・徳太郎〔鞆村弟〕・甚右衛門皆至、夜話

御内意之覚

吉村庄太郎〔鞆村後妻の兄弟〕妹儀、御目見医師阿阝大順養女ニ遣申度内談仕候、閏之助〔吉田中小姓頭〕殿御存寄無御坐候ハヽ、取究申度奉存候、此段可然様奉願〔カ〕候、以上

十二月　吉村庄太郎〔鞆村後妻の兄弟〕相州詰仕居候ニ付、留守支配

木下真太郎

米村平之允〔中小姓組脇カ〕殿

神足浅右衛門〔中小姓〕殿

右平之允〔米村〕江相達候處、今日付紙米村徳太郎持参

本行之趣存寄無之候条、御勝手次第可有御取組候旨、

以上

十二月十一日

木下真太郎殿

神足浅右衛門〔中小姓〕

米村平之允〔中小姓組脇カ〕

十二日

調人職〔宋礼〕解釈政府江差出、惣教衆折中有之候末、山口先生〔仁九郎〕并同役築瀬〔騏兵衛〕列ゟ書付差出ニ相成居候、差帰ニ相成候由ニて今日井口〔呈助〕ゟ拝見候ニ付、辛嶋〔多喜次〕申談、存寄之趣申向候

十三日

講説、六言六蔽章〔論語陽貨〕　○監物殿〔長岡〕嫡女沼田家江婚儀調候知セニ付、為歓罷越　○小笠原〔長厚カ〕民部方江中津海〔平之進〕詩会歳終ニ付、夕方罷越

十四日

御寺参拝、出勤、中津海〔平之進〕相共ニ詩文考課下調清書、同人

ニ付ス

十五日

上野列易会終り

十六日

二丸明日ニ御延引、学校江出、年末しらへいたす

十七日

二丸出、尚学校江出、年末しらへいたす　○朝漆島甚次〔元亨撃役〕郎至、講会ノコトヲ談スル　○夜分辛嶋〔多喜次〕江参る、調人職ノコトヲ談スル

十八日

年末しらべ

十九日

右同、残りしらべ、當年ハ簗瀬〔騏兵衛〕教局詰十九・廿日ハ支可申見込ニ付、十七・八分打立候事

廿日

諸事相仕舞、達物等相済

廿一日

調人一件之日記書継　○塾中破本取調　○水津〔眼太郎〕来而惣教衆溝口氏〔蔵人〕調人一件ニ付而之存寄口演内々為見　○高野瀬分便宜有之□〔虫損〕喜兵衛〔吉村〕殿病氣之由申来　○中山彦左衛門江吉村敬太事申談　○栃原助之進轉宅ニ付而、鳥目相談　○夜岡松魯助〔門生〕来而小酌、北野家岡松辰吾〔寒谷〕江縁組間違之趣承知いたす　○小太郎〔鐘村弟〕出府、家内病状ヲ談ス

廿二日

〔目付〕井上久之允江参り　○鳩野宗俊ニ参る　○岡松〔俊助カ〕駿甫ニ両度参る、子細ハ昨夜魯助〔岡松〕咄ニて、北野娘〔隆右衛門〕縁組之間違承知いたし候ニ付、高橋弥平〔弥四郎子〕ヲ呼申談、猶駿甫〔岡松〕ニも問合候上、弥以内定候、其返〔カ〕ニて北野〔隆右衛門〕江中松助〔勘定所根取カ〕作分申遣候趣と違候、

依而荒々右之様子承り込申候段、北野隆右衛門（中小姓）江申遣ス、夜小太郎（韓村弟）宿、雨、寒風

廿三日

小太郎（韓村弟）帰在　○辛島多喜次（時習館調導）来而調人一件ニ付而之書附諸扣持参被相渡　○風邪氣味ニて休息、片手ニ右書附ヲ見ル

廿四日

不快ニ付、出納ニ引入申遣ス　○小笠原会断　○漆島（元穿鑿役）甚次郎至　○渡ノ子八郎（坂梨手水）至、甚次郎（漆島）仕立之講会申談、渡ノ・犬塚（伊之助カ）両人分百五十め（カ）宛手元江預り置　○小太郎（韓村弟）家内至、鳩野（宗俊カ）江遣候處、留守　○木下助之允（韓村弟）紙面至、千田之事申越、千田江紙面仕出、菊池江も仕出筈、尤助之允（韓村弟）江返事ニ多田（丈左衛門カ）隈紙面返ス　○信十郎（韓村子）墓参　○井上亮助（門生）咄合　○下津（休也）隠居至　○右田喜十郎（城野弥二次弟）至、弥三次（城野）娘相引済候由申来　○清太郎至　○今日餅突

廿五日

朝小太郎（韓村弟）家内を連、鳩野（次兵衛）宗巴ニ至ル、病氣乳（にゅうが）蛾風之末ならんと治療いたしくれ候　○雨天、同人、下人ヲ連帰ル　○二丸江出ル、諸師役一同也、田中・竹原（九左衛門カ）・萱野・正垣（九十郎）・門司（源兵衛）・小堀清父子（平右衛門・清左衛門）・村松某（三郎右衛門・習書師）也、御酒御飯被下、白銀二枚御（登之助・寛五郎）二方様ゟ拝領　○帰途醉候而難渋、下津（休也）殿隠宅江立寄休息、七ツ過ゟ引取、直ニ簗瀬（鎮兵衛）江行、同人今日御用、助教ニ成られたり、夜中引取、今日御用之知セハ、永鳥（彦助）・船津・大槻次郎兵衛也　○豫州今治家中池田彦六郎入門、對面

名乗反切ノコトハ元謂レナキコトなれハ、兼而存セす、頼む人ニハ断来候得共、右之趣承知之上、猶俗ニ従ひ吟味仕くれ候様との頼ニ付、曽而山田先生（敬次カ）江尋、名ヲ撰候儀有之、此節尚又頼来、以前之法忘れたれハ又々老先生江尋たる趣扣置

先通り字ノ注文有之、土性ニ俊也、俊、韻鏡ニ其字無之、字彙ニカケ功音吟味子峻ノ功トアリ、然レハ韻鏡中内轉十八合、（韻鏡一巻、二十九丁）去声稕々ノ部、儁ノ字即チ俊ノ居リトコロ

ナリ、儁ノ字下ニ(子峻)トアリ、サテコノ俊ヲ上ニヲクモ下ニヲクモ同シ、一字ハ土性ニ相生ヲトツテ火ヨリトル、脣(木)・舌(火)・牙(土)・歯(金)・喉(水)舌音ヨリトルコトナリ、唐陽ノ舌音ニ長ノ字アリ、俊長トスレハ母字ノ處ヨリ歯音ニカヱル、儁歯音ナレハナリ　其一區中儁ノ座ニ當ルヲ將ノ字トス、此座ヨリ母字ノ位ヲトリテ一字上ノ章ノ字歸納トナルヨシ、又尤ノ韻ノ舌音儔ノ字ヲトリテ俊儔トスルモヨシ、コレハ父字歯音ノ部ニカヘリ、母字ノ位ヲトツテ、周ノ字即其帰納なり、相生ニ好字ナケレハ我ヨリ物ヲ克スルハヨキ道理トテ、水性ニ火ヨリ火性ニ、金より金性ニ、木より木ニ、土ヨリ取ルモヨシト玉山(秋山)先生傳法ノ由、山田先生(敬次カ)被申候

廿六日

助之允(鍋村弟)ゟ千田之事猶又申越、多田隈丈左衛門(中宮手水)紙面并おはる(鍋村妹)文も為見、分財之末、大畧相片付候由　○門岡員右衛門渡り物持参(ママ)○

廿七日

藥礼等取調　○昼比是法有吉家隠宅江見舞　○石光敬助・右田(門生)大四郎等至

廿八日

飯後、米田壱岐殿兄弟(是豪・是保)江金子等之礼、溝口殿(藏人)紙面之答、下津家江此間之礼、船津(三右衛門)・大槻(彈藏)・永鳥(彦助)江御用之歓打廻り、終日在宿、諸方付届等いたす

廿九日

太守様(細川斉護)去ル十六日依召御登城、中将ニ御任官被為蒙　仰候、御到来有之、今日平士ハ為御歓執政回り有之、右相濟候而終日在宿、俗事ニ應す

晦

年仕舞例之通、八ツ比大城方・高橋方江参り、弥平(高橋)同道、鋤ノ身先・立町等立廻り　○當年塾中越年生、肥前長尾

恕吉・豊前二宮雄策・豊後森嶋銀次郎・長崎山岡輔太郎・志水源吾・霭崎飯塚哲太・伊豫今治池田彦六郎共、守歳、平蔵・助之進（栃原）・乙熊（草野）・辰次郎至